

# キャプテンストライダム

頭からずっぽりと  
第2ステージに突入！



L→R: Dr./Cho.菊住 守代司、Vo./G.永友 聖也、Ba./Cho.梅田 啓介

類似希なるポップセンスと強烈無比なライブパフォーマンスで全国のロックファンをトリコにしている、キテレツ系骨太ロックバンド・キャプテンストライダム。3月の3rdアルバムリリースと渋谷公会堂でのワンマンライブを前にしてリリースされるシングルは、何がなんだかわからないうちに夜明けまでリスナーをぶっ飛ばすロックナンバーだ。

●2/7にシングル「LONE STAR」リリース、そして3/7にアルバム「BAN BAN BAN」がリリースとなりますが、3ヶ月連続マンスリーライブ（※1）と並行してシングル・アルバム制作を進めていたんですね。そもそもマンスリーライブの狙いとしては、アルバムに相乗効果を与えるため、という話でしたが。

永友：その為に周到に計画（※2）されたライブでした。

●昨年の秋頃といえば同時並行的にツアーやマンスリーライブや制作作業などいろんなことがあったと思いますが、切り換えできてたんですか？

永友：いや、切り換えなかったんですよ。むしろ今までレコーディングはレコーディング、ライブはライブという風に分けて作っていたんですけど、今回はライブでやっている自分たちの姿に近いシングルとアルバムにしたいという。曲作りもライブを見据えて進めたいし、レコーディングもライブでやる時と同じようなテンションや緊張感で演奏したんです。

●昨年3月にリリースした2ndアルバム「108DREAMS」はポップを追求した作品でキラキラしたアレンジが印象的でしたけど、以降はどういう方向に進んで今に至るんですか？

永友：「108DREAMS」の次にリリースしたシングル「風船ガム」を作っている制作過程でライブを見据えた方向になってきましたね。生ドラムも入れないようなデジタルアレンジで作ってみようというアイデアがあって。「風船ガム」のシングルにREMIXヴァージョンが入っているんですけど、実はそっちの方が先に出来たんですよ。確かにポップで楽しい「108DREAMS」の延長線上にはあるものだったんです。でも、「108DREAMS」を作った時の達成感がすごく大きくて、次も同じだけのハードルを超えて大きな達成感を感じたいという想いがある。

●自らに高いハードルを課す必要があったんですね（※3）。

永友：「作品とライブの印象が違いますよね」と

言われることが結構あったので、ライブでの自分たちの良さだったり持っているものを作品にするということに挑戦してみよう。そこからスタートして今に至ります。

●僕は「108DREAMS」のリリースよりも前からずっと言っているんですけど、キャプストのいちばんの魅力は、ライブのドキドキ感というか、わけがわからないすごさだと思ってる。

永友：言ってくださいよ！

●今まで何度か直接言っていたし、誌面にも書いてましたよ！「キャプストはポップだけどホントはすごくわけがわからないんだぜ！」とか。

永友：JUNGLE★LIFEは読まないの…

●読めよ！キミら今月表紙や！（※4）

永友：（笑）。まあ、ライブと音源のギャップがいちばんの問題と言えは問題だったと思うんですよ。

●ポップなのはダメだとは思わないですけど、いちばんの魅力はどこかという話です。

永友：そうですね。今回はそこに向き合おうという、今まではないチャレンジだったんですよ。

●なぜ今までそういう発想がなかったんでしょう？ライブと音源は別ものだと思っていたとか？

永友：そういう考え方もありました。ライブを目指してレコーディングをしても実際のライブの方が絶対にいいと思って、だったらレコーディングはレコーディングで楽しめるものをカッチリと作り込む方が自分たちには合っているという感覚なんです。

●音源では別の人が弾いているわけではないですよね？

永友：そうる透さん（※5）が叩いているわけじゃないんですけど、つまりそれだけライブ感を出しながら、ライブと同じだけの迫力とか興奮を作品として取めるのはすごく難しいんですよ。そのためには「一緒にあって思い切り力をやってくれる人」が必要だということで、久保田光太郎さんをプロデューサーとして迎えて。夏ぐらいから曲作りに入った感じですね。

●その流れで11月にシングル「恋するフレミング」をリリースし、今年2月にシングル「LONE STAR」のリリースを控えているんですね。

永友：そうですね。「LONE STAR」は去年の8月ごろ、いろんなフェスに出演していた時期にできた曲。

梅田：暑い時にデモを聴いて「あ、速い曲だ」で思ってた（笑）。リフは速いし、とにかくノれる。

●この曲、覚え易すぎです（笑）。いい意味で。永友：イメージがはっきりしていたからだと思うんですよ。光太郎さんと速い曲を作ろうという、まさにそういうコンセプトだったんですよ。

梅田：だからコンセプトが100%伝わってる（笑）。永友：疾走感がある、何となく切迫感という緊張感がある感じで、でもサビでは解放される…みたいな。そういうコンセプトを光太郎さんと話し合ってる盛り上がりで、「ここまで来たらあとは曲を作らなれば」と（笑）。

●先にコンセプトだけを固めたんですか？永友：変な話なんですけど（笑）。「シングルにもなり得て、アルバムの中でも核になる曲を作ろう」って。そのイメージが明確だったのでメロディもほぼ迷いなく出て来ました。今回はバンドのみんなが何かひとつの目標に向かっていける作品にしたくて、その目標というのは「ライブに負けない音楽を作品で作る」ということで、その為にはみんな同じ方向を向いてブレずに走っていかないといけない。だから曲がない段階から「こういう曲を作ろうと思うんだぜ」というような。

●そういう行程を経て作った曲ってごじままりとした曲になる怖れもあるかと思うんですが。

永友：今回はバンドで作ったという感覚がすごく大きいんですよ。ライブで演奏しているところを想像したりとかしながら作る。作るというよりもライブのシーンを思い浮かべるんです。例えば今だったら「キミトベ」とか「マウンテン・ア・ゴー・ゴー」という曲がライブのハイライトになっていて「それらに代わる新しいものを作りたい」というイメージ。

●話を聞いていて、俗に言う「降りて来た」みたいな状態を意図的に自分の中で作っているような気がします。

永友：そうですね。そこを強くイメージするという

ことが大事なんですよ。「こんななんか～？」って言いながら適当に作っていても多分そういう風にはならないんですよ。

●具体的には？永友：本当にさっき言った「あとは曲を作るだけだ！…でも曲はないんだかね」みたいな（笑）。

●ちょっとアホっぽいですね。

永友：言葉にすると完全にアホですね（※7）。でもそうやって「LONE STAR」も作ったし、「恋するフレミング」もそういうところがあった。きっと必然性があると思うんですよ。そうやってイメージは出来たけど曲にならない場合もたくさんあるんです。そんな中で「LONE STAR」（※8）は波長がピタッと合ったんですよ。

●ちなみにこの曲はどこから出てきたんですか？

永友：サビから作って、翌日はもうスタジオでみんなまで合わせるということになっていたんで、夜中の3時とかぐらいい家に帰り、そこからAメロとBメロを急いで作って翌日のスタジオで合わせて。

●寝ないで？永友：寝ましたよ。早く寝たかったからAメロとBメロは…

●…やつついで？

永友：やつついで（笑）。サビの完成度が高かったので、そこからは早かったですね。

梅田：永友さんがAメロ、Bメロを持って来た日のうちに大体ヘッドアレンジみたいなものは終わって、転換も付ちゃって。曲を聴いて合わせて、その時に説明として聞いたのは「リフをガンガン弾いてくれ」というのと「サビを景気よく弾いてくれ」ということくらい。それでも「なるほど～あの感じね」みたいに思いましたね。

●さっき覚え易いって言いましたが、それは歌メロの話だけじゃなくて、ギターやサウンド全部含めての感覚なんですよ。今までキャプストにそういう印象はあまり持ってなかったんですけど、すべての音に必然性を感じるんです。

永友：そういうことに関しては光太郎さんとかエンジニアがすごく職人気質なんです。本当に荒々し

## ビデオクリップ「LONE STAR」

の内容を少しだけJUNGLE★LIFE読者にご紹介

最新作「LONE STAR」ビデオクリップ  
様々なアーティストのPVを手がける映像ディレクター・スミス氏（※15）の「この楽曲の疾走感やスピード感を障害物競走で表現してみました」というアイデアにより、「LONE STAR」の疾走トクパタビデオクリップが完成した。テレビが無い読者の皆さんにも知っていただきたく、ジャングルライブ誌面でビデオクリップの内容を少しだけ紹介いたします。



永友聖也が語る「LONE STAR」ビデオクリップ

永友：「LONE STAR」は「旅」というテーマがあるんですけど、このビデオクリップに「旅」は…無いですね（笑）。ウチの親が「ビデオが面白すぎて、曲が入ってこない」と言っていました。ちょっと大丈夫かな？と思っただけなんですけど（笑）、大丈夫です！すごく満足しています。今までのビデオクリップはどこかウィットに富んでましたけど、今回は「裏の意味」とかまったく無いです！全開です！

【障害物競走シーン】

※習志野市の袖ヶ浦団地内にあるショッピングセンターで撮影。  
梅田：袋単位で土を買ってきて、水だと冷たいからお湯で泥を作った。  
永友：守代司が泥にハマったけど、ホントは誰か泥にハマるか本人たちにもわからない状態で撮りかかったね。菊住：泥と言えば「アメリカ横断ウルトラクイズ」（※16）だね。子供のころの憧れが実現できたから、この泥にハマるシーンは本当に嬉しかった。



くて激しい音を雑に録音しても絶対に僕らが求めている音にはならないから、ちゃんと計算しようという姿勢で。僕たちもそれにもすごく刺激を受けて。  
**●ライブ感を音源で出す方法の解明ということですよ。それこそポップだと思わんです。**  
 永友：そういう意味でレコーディングでしか出来ないことを今回もやってはいるんですけど、言ってみれば「ライブと音源の勝負」に挑戦するというか。菊住：着地点が全員一緒で、余計なところを作らなくていいの音より目的に対して直接的に作り込めるという作業ですね。  
 永友：複雑なものをシンプルにして出すということは、すごく意味がある作業だと思いましたね。世の中情報量が多いですからね。

**●…おや？ 何の話をしはじめたんですか？**  
 永友：重要なものも不要なものも並列に情報が存在している気がして。インターネットもそうだし。(中略：※9) …そんな世の中で、そろそろロックバンドが出来るシンプルだけど強いメッセージとかふっさされた感じが今はすごく大事だと思ったんです。自分でもそういう歌を唄いたい。

**●きっかけは何だったんですか？ インターネットとかですか？**

永友：僕、パソコン苦手で。テレビとかですね。  
**●さっき「インターネット」という発言が出ましたけど…本当にやってるんですか？**  
 永友：やっていますよ！ カリビアンコム(※10)とか。  
**●(笑)。でも真面目な話、音楽は情報のひとつとして世の中で扱われている気がしますね。**

永友：音楽をダウンロードしちゃっ感じってすごく恐いんですよ。仕方ないことだと思いつつも、本質を見失っちゃいけないだろうと。だからこそ、シンプルでたくて深いものを今作りたいたいと思う。  
**●そういう想いがあって出来た曲なんですか。**  
 永友：そうですね。他に「旅」というテーマもあり(※11)。

**●なぜそう思ったんですか？**  
 永友：今が旅をするときだと思ったんですよ。この曲を作ったのは風待レコードから卒業した時期だったし、『108DREAMS』から次のところバンドが向かわなくてはいけない時期だと思っていたし。バンドはひと皮剥け続けなきゃいけないと思うんです。つまりずっと旅は続くんですけど、この曲は改めて腹を括って作った曲だったので、だからこそ「旅」というテーマがふさわしいと思って。旅モノの曲はいつかは作りたいという想いが前からあったんです



けど「今日！」って。  
**●なるほど。大きな転機になりそうですね。ちなみに旅以外でまだ曲にしていないテーマはありますか？**  
 永友：すっぴいエロい歌とかね。  
**●キャストらしくないなあ(笑)。**  
 永友：そのらしくないイメージを何とか変えたいんですよ(※12)。

**●エロくはないんですか？**  
 永友：ロックといえは下ネタじゃないですか(※13)。  
**●下ネタの曲を作りたいんですか？**  
 永友：ZZ Topとか改めて歌詞読んだんですけど、全部下ネタだし(笑)。サザンオールスターズもそういう曲があるし、下ネタな感じはブルースロックとか。ロックバンドとしてはそこに行きたい。

**●キャストの最終的な目標は下ネタですか。**  
 永友：ものすごくハゲで下ネタの歌とか唄っていたら最高にかっこいいですよ。  
**●そして、3/7のアルバムリリース直後、3/18には渋谷公会堂(※14)のワンマンも迫ってますね。**  
 永友：バンドの楽しさとか音楽をやっている楽しさというのをアルバムに詰め込んだので、ワンマンは自分たちが本当に楽しめるものに行きたいです。音楽ってこんなに楽しいんだっていうことを感じさせられるようなライブにしたい。ライブもそうですけど、とにかく今年は身体でぶつかろうと思っています。ライブにしても曲作りにしてもそういう大きなテーマはありますね。

Interview : Takeshi,Yamanaka  
 Assistant : 中川佳美

New Single  
**LONE STAR**  
 Yeah! Yeah! Yeah! Records  
 AICL-1787  
 ¥1,223 (税込)  
 2007.2.7 Release

※キャスト・マスト・トピックス  
 3/07 3rd Album『BAN BAN BAN』リリース！  
 3/18 渋谷公会堂ワンマンライブ『BIG BAN』

**【梅田逆パンジー乗っ取りシーン】**  
 ※緊張メッセの大型駐車場撮影。  
 菊住：打ち合わせのときに「例えば誰かパンジー乗っ取りじゃない？」って話が出て、梅田さんが即「はい！」って言ったよね。  
 梅田：俺、パンジー乗っ取りが大好きなんだよね。300kgの鉄板のオモリがあって、ヒモでその鉄板に結びつけて。で、「せーの」でそのヒモを外して、飛び。全部で3テイク撮ったんだけど、1回目と2回目はクレーンの引っぱりが弱くて「ふっつ」。だから3テイク目は鉄板の上に大人が5人乗っかって限界まで引っぱって。CCDカメラ付きのヘルメットで「下の情景を撮りたいから空では顔を上に向けてね」と言われてたんだけど、g(※17)が強くて首を上げられなかったな。でもめちゃくちゃ楽しかった。永友：そこまでやらないと「LONE STAR」のサビの開放感は表現できなかったよね。緊張と緩和を映像で表現するという、緻密な計算があった(※18)。

**地球と読者に優しく、キャストに手厳しいキャスト注釈**

- ※1： **マンスリーライブ**：ebisu LIQUIDROOMにて06年9月より3ヶ月連続で行われたワンマンライブ。EAGLE NIGHT、SHARK NIGHT、PANTHER NIGHTと名付けられた。
- ※2： 用意周到は言い過ぎ。2回目はシングル『恋するフレミング』のツアーの一貫として開催されたし。
- ※3： 賢明な読者の諸君はとくに気付いていると思うが、キャストはTM/MDなんだ。
- ※4： 永友にもてあそばれるインタビュアーのボケ。そうる透氏は日本のトップドラマーで、現在はTHE ALFEEのサポートもしている。プログデはほぼ毎日毎日とワインの話が出てくる。
- ※5： **そうる透**：この発言は永友なりのボケ。そうる透氏は日本のトップドラマーで、現在はTHE ALFEEのサポートもしている。プログデはほぼ毎日毎日とワインの話が出てくる。
- ※6： **久保田光太郎**：永友は「バカを発見したんです」と笑うが、アレンジやギタリスト、作曲、作詞なども行うすごい人。TOKIOやエレカシなどにも楽曲を提供。ちなみに2006年に永友が携帯電話を持ち始めた理由も、制作作業に於いて久保田氏と密なコミュニケーションを取るため。
- ※7： 第三者が聞いたらアホの会話であるが、両者は真剣だった。
- ※8： 「LONE STAR」はまさにサビのフレーズが思い浮かんだが、久保田光太郎氏からの「ちょっと高いところ唄って」というリクエストですごく高い音程になった。永友曰く「高すぎたなあって唄うたびに思います」。
- ※9： うんちくが長かったので割愛した。
- ※10： **カリビアンコム**：アダルト動画配信サイト。ミュージシャン永友のイメージを壊す発言だったが、事務所には無断で載せることとした。
- ※11： **旅**：永友が人生で最も印象に残っている旅は湯布院。温泉あき旅したことが無いらしい。梅田が印象に残っている旅は、中学生のときに自転車で地元秋田から青森県に向かったと。旅。白神山地まで遠く一晚過した。菊住は宇部宮から飲んだ勢いで早朝に訪れた下北沢。
- ※12： 実は今までも取材のたびに話面にはならない下ネタ的質問を受けたことこのインタビュー。最近やっと心を開いて答えてくれるようになったメンバー。
- ※13： おそろく「セックス・ドラッグ・ロックンロール」のことを言っているのだと思う。
- ※14： 正確には2011年10月まで「渋谷C.C.Lemonホール」である。ワンマン成功を祈願して、1/1から3/18までメンバーはそれぞれ禁煙(梅田)、禁カレー(永友)、禁ラーメン(菊住)、禁酒(菊住・久保田)の願掛け。インタビューも取材中に願掛けをなぜか無視され禁酒中。
- ※15： **スミス**：竹内芸能団体の映像ディレクター。氣志團、DJ OZMA、サザンオールスターズ、マキシマムザホルモン、矢井田篤、フジファブリックなどのPVを手がける。武蔵野美術大学出身。
- ※16： **アメリカ横断ウルトラクイズ**：説明不要。番組打ち切り時に熱狂的ファンだった菊住の友人は理由を聞くために日テレに電話し「不景気だからです」と一刀両断された。
- ※17： **g**：重力加速度(gravity)のこと。単位で使う場合は大文字で「G」として表記する。地球の標準重力が1Gで、戦艦機における加速度の限界は9G(それ以上になると搭乗者の機体が危険)。ちなみに月は0.165G、水星2.78G、火星3.71G、金星8.87G、土星8.96G、海王星11G、木星23.12G、太陽に至っては274G。やっぱり太陽はすごい。
- ※18： 計算はなかった。
- ※おまけ： **最近のブーム**：「2007年はライブをたくさん観にきたい」と語る永友は、つい最近Blue Noteでラリー・カールトンを観た。菊住は部屋でやってた水泳を最近始めた。ヘアがはみ出るほどのピキニ海パンを着用しており、2007年は菊住守代司くん解禁元年。梅田は自分を律するために早寝早起きしたり毎週必ず月9「東京タワー」を観たりしている。「たまにはその辺のOLとドラマの話などしたい」とのたまう梅田。